

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

第1回ワークショップの結果概要（案）

1 公共施設マネジメントについて

■ 基本的な考え方

- 今後税収が減っていくことを考えると、市全体として公共施設の数減らしたり集約することで、効率化する必要性があることは理解できる。
- できれば公共施設を減らして欲しくないなので、減らすことを前提にせず、現状を維持する方向で考えることはできないか。
- 現状使われていない施設は公共施設の面積に含めずに1人あたりの床面積を出すなど、より実情を反映したデータを提示してほしい。
- 塩津地区にある多様な公共施設は地区に活気をもたらす良い面がある一方で、子どもたちにとって良い影響ばかりを与えている施設ばかりとは言えない。施設の特性によっては居住エリアとは分けて配置すべきものもあると思うので、今回の検討でエリア分けについても考えていきたい。
- 再配置や統廃合の際には、売却を含めた跡地利用方法についても検討し、戦略を持つ必要がある。

■ 施設の集約化・複合化

- 学校に機能を複合して新たな交流拠点を作るとしたら、地区の将来がよりが充実する様に、様々な地区のデータや先進事例などを参考にしながら、複合する機能を慎重に考えていく必要がある。
- 最初に検討を始める塩津地区では、小、中学校を集約化することにしたのに、後から議論する地区ではそうしないことに決まったとしたら、施設の数が増える地区と減らない地区が出てきて不公平になってしまう。市としての統一された方針はないのか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 集約化、複合化して新しい施設をつくるとしても、建設するための土地が無かったら土地買収のための費用が発生するので割高になってしまい、今のままの土地に建てるとしたら、十分な床面積が確保できるだけの広さがあるのかわからないので、そういった情報も事前に提供してほしい。
- 学校が複合化することで世代間交流が生まれたり、送迎が楽になるなど子育ての環境が充実されるので、良いことだと思う。
- 学校を複合化する際には、子どもの安全性を確保する対策を取るとともに、放課後の遊びや活動に制約が出ないようにして、これまで同様に子どもの居場所を確保してほしい。
- 塩津保育園と塩津北保育園はどちらも園児数が減っているのになかなか統合されない。そのような状況をみると、今後施設の再配置が順調に行われていくのか疑問を感じる。

■ 災害時対応

- 公共施設の再配置を検討する際には、災害時のことも踏まえて、避難所の数や配置、災害時の対応のあり方についても考えたい。新たな施設を設計するならば、避難所としても使えるように十分な収容スペースや津波対応できる階高を確保してほしい。
- 今後起こりうる地震などへの災害対策を万が一の規模に備えたレベルで考えるのか、それとも被害はさほど大きくないとして考えるのかによって、避難所整備の度合いも変わるだろう。市の考えを知りたい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 施設へのアクセス

- 鉄道の高架化により踏切がなくなってしまい塩津地区は南北に分断されてしまっているが、現状でも公共施設のほとんどが北側に設置されているので、行くのに時間がかかる地区もある。公共施設が複合化し更に不便にならないように配慮し、各地区から施設までのアクセスの公平性を考えてほしい。
- 施設を集約化・複合化する場合、施設まで行きにくくなる地域が発生するので、道路の整備や巡回バスの運行などによって、施設へのアクセスを良くしてほしい。また、利用が増えることを見据えて、十分な駐車場を確保する必要がある。

2 検討の進め方

■ 地区個別計画策定に向けた検討の進め方

- 地区個別計画の策定に向けた検討は、地域住民が公共施設について考え意見を伝える良い機会になると思うので、この取り組みを多くの人に周知し、検討の過程に関わってもらえるようにしてほしい。
- 施設のことを良く理解し、管理している学校や保育園の教職員に対して、複合化や地域住民との交流についての意見を聞く必要があると思う。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ ワークショップの進め方

- 地区ごとに公共施設の再配置を検討するのであれば、市全体ではなく地区の公共施設の現況と課題を把握する必要があると思うので、学校の空き教室数や公民館の目的に応じた部屋ごとの利用率など、塩津地区の地区利用型施設のデータを提示してもらいたい。他地区との比較もできると良い。
- 地区利用型施設の再配置を検討する場にも関わらず、市全体の1人あたりの公共施設面積、それも市民のためだけではないポートレース場の様な施設まで含めたデータを示されると、誘導するために市の都合の良いデータを出しているのではないかと勘ぐってしまう。
- 現状使われていない施設は公共施設的面積に含めずに1人あたりの床面積を出すなど、より実情を反映したデータを提示してほしい。
- 地区個別計画の策定を塩津地区から始める理由や他地区との比較を、データを示して説明してほしい。
- 市民アンケートを年代別に集計し、世代ごとの考え方の傾向をつかめると、各々の世代が何を重視しているのかが見えてくるので、各施設のメンテナンスの意向を汲んだ、活用方法を提案することができるのではないかな。
- ワークショップの開催日程は、なるべく多くの人に参加できるように地元の記事などの日程を確認した上で決定してほしい。
- ワークショップで出された意見は、一部だけではなく全て公表してほしい。

■ 地区のまちづくりの方向性

- 塩津地区は現状では特徴がないが、将来どんな地区にしていきたいかというビジョンを考える必要がある。たとえば子育てしやすい地区という方向性は考えられるのだろうか。
- 同じ塩津地区の中でも、昔からの人が多い地区と外国人などの新しい住民が相当数いる地区とでは、地域住民のつながりの度合いが異なる。日本語がわからない場合も多い外国人との関係を築くためには、場を設けるだけでなく運営の工夫や人材が必要だ。
- お祭りは3つあるが地区ごとに行われているので活気に欠ける。今は塩津全体で行う取り組みが運動会しかないので、世代間交流ができる機会と場所を作りたい。

■ 公共施設全般

- 地区の公共施設が使いづらいとかスペースが足りないので困ったという話は耳にしたことがない。
- 公共施設全般に耐震工事で補強されているのか。児童館以外は老朽化しているので安全性が心配だ。
- 公共施設は限られた人しか使っておらず、日常的に広く一般市民に利用されていないのではないか。自分が使うとしたらどのように使うのかイメージすらできない。
- 公園の管理が行き届いていないため、ボランティアで対応している状況だ。遊具やトイレの整備、草刈りなどの管理体制を整え、だれが何をするのかを明確にしてほしい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 公共施設に十分な駐車スペースがないため、路上駐車が発生して近隣に迷惑をかけている。施設を建てる際には駐車場の整備もあわせて検討してほしい。

■ 小学校・中学校

- 小中学校の空き教室があるならば高齢者用の施設として有効活用してほしい。公民館のスペース不足やアクセスの不便さを補えると思う。
- 児童クラブが定員いっぱいに入れなかったり、1年生だけは保育園で過ごさなければならない状況を改善してほしい。施設の複合化によって、全学年が同じ場所で過ごせる児童クラブが整備できると良い。
- きょうだいの少ない家庭が増えているなか、小学生と中学生の交流も重要な多世代交流の1つなので、小中一貫校の創設に取り組むことは大切ではないか。市で小中一貫校の視察を行っているのなら事例を示してもらい、その効果について職員の生の意見も聞きながら検討したい。
- 小中学校は地区の行事に使うこともあるが、トイレの数が足りなかったり、古くて使いにくいという問題がある。また、災害時に備えて貯水槽の水を仮設トイレに使える様にする等の対処も必要になる。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 保育園

- 公立の保育園は、就労や保育できない理由があることが入園の条件になっていたり、定員割れしていても規程があるので3歳未満児を預かってもらえなかったりして、使い勝手が悪い。保育園料の設定は不透明で民間の方が安い場合もあるので、制約の多い老朽化した設備の公立から、より活気がある私立の保育園に園児が流れているのではないかと。
- 塩津保育園は老朽化が進み、地震の際に不安があるのに加え、雰囲気も暗い。塩津北保育園は、生活道路に面しているため安全面に不安がある。どちらの園も親にとって魅力に欠けている。
- 市内の保育園が自由に選べるのは良いことだが、延長保育のある園に園児が集まり、延長保育がない園は定員割れになっているようだ。効率を重視すれば定員に満たない園を統廃合することになるのだろうが、車が使えない家庭にとって近隣の保育園がなくなることは負担になるので、弱い立場の人に配慮し、公共のための施設という観点を忘れないでほしい。
- 山の上にある塩津保育園の立地は通園に不便である。塩津保育園及び塩津北保育園は、共に地区の北側にあるため南側の住民にとっては通うのが大変だ。再配置する際には通園の利便性や、地区内で不平等が起きないことに配慮してほしい。
- 送迎の手段に関わらず、自宅近くの園は親にとって利便性が高いので自宅の近くで預けたい。地区内の保育園に通えれば卒園後に同じ小学校に通えるので子供にとっても良い。自宅から通いやすい園に入園できるように数を減らさず、市の保育園を維持してほしい。
- 塩津保育園には発達支援が必要な未就園児のための親子教室があるが、市内には設置されていない園もある。全市として対応していくための方策、施設の整備を考えられるとよい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 検討の対象は公立の保育園のみとのことだが、公立に入園できない人は私立に入園させることになるので、塩津地区の保育環境を考えるならば、私立の保育園も含めて考える必要があるのではないか。

■ 児童館

- しおつ児童館は運用がしっかりされており地域住民の役に立っていると聞いている。学校が複合化されたとしても、これまでどおり、子ども達の遊び場、居場所は場として確保されるべき。

■ 公民館

- 公民館に関する情報発信が足りないなので、どんな行事が行われているのかわからないし、場所もわからない人が特に若い人に多い。積極的に情報を伝え、行事や活動の内容自体も魅力あるものにすべきだ。
- 魅力を感じる身近な公共施設がないので、地区の若者のまちへの関心がなくなってきているようだ。若者にとって唯一の身近な公共施設である小、中学校に公民館を複合させれば、公民館に対する意識を変え、利用を促すことができるかもしれない。
- 公民館は老朽化が進み、玄関のスロープやエレベーターがないため高齢者や障がい者にとって使いにくいのでバリアフリーに配慮してほしい。エントランスは入りにくい雰囲気もあるので、開かれた雰囲気にしてほしい。
- 塩津地区の各総代区には各々の集会所があるので、日常的にはそれを利用している。公民館の利用を促すには、地区内の各所からのアクセスを向上させる必要がある。また、集会所を充実させることも必要だ。